



認知症医療センターには、一般市民、専門職の方々へ認知症に関する情報を発信し、認知症の普及・啓発を促進するという重要な役割があります。センター便りとして定期的に情報を発信していきます

特集 認知症のお薬について(その2)

■ お薬は飲めていますか？



風邪をひいた時を想像してみてください。咳や熱、のどの痛みを感じたら風邪薬を飲みますよね。（薬を飲まず根性で治す！という方もいらっしゃるかもしれませんが）その他の病気でも言えることですが、症状が出ると病気かな？と思い病院を受診、または、薬局で薬を購入し病気を治そうとします。

認知症の患者さんの場合を考えてみます。認知症の初期では病気を自覚し、治療にも積極的でお薬をきちんと飲むことができます。

しかし、認知症が進むと病気であることを自覚できず薬を飲む必要性もわからなくなります。お薬の飲み忘れや飲むことを嫌がり飲まないことが増えてきます。

また、認知症のお薬はすごく苦いものもありますので、口に入れても吐き出します。ご家族や施設のスタッフは苦労します…



■ 飲み忘れが多い方の対処法

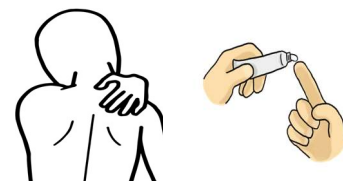
お薬を飲み忘れる方への対処法ですが、患者さんの自己管理が難しいことを考えるとご家族を含め周りの人の協力が必要です。

一人暮らしの場合、訪問看護や認知症デイケアを利用しながら薬を飲んでもらうのも良いかもしれません。



お薬を飲まない（強く拒む）方には主治医に相談して飲み薬を貼り薬に変えて治療するのも一つの方法です。

その際は患者さんの手が届かない位置に貼ってください。気付かないうちに本人が剥がしてしまうことがあります。また、副作用で皮膚がかぶれてしまう事があります。貼る場所を変える、軟膏を塗る等の工夫で対処してください。



薬剤師 白石英樹

(次号では、認知症の薬物療法「回想療法を中心に」を掲載いたします)

お薦めの一冊のご紹介

「ぼけ、のち晴れ」～認知症のひととうまいこと生きるコツ

川畑 智 著 内野 勝行 監修 発行所 アスコム
価格 1400+税 (ISBN978-4-7762-1328-4)

3月16日開催する下記のセミナーで講師をお願いしている川畑先生の新著です。認知症の中核症状（記憶、見当識、理解判断など）や行動心理症状（被害妄想、徘徊、暴言など）について誰が読んでも分かりやすく書かれているだけでなく、個々の認知症の人の視点に立ち、その人のそれぞれの心に寄り添いながら関わる事の大切さがとても暖かな言葉で表現されている一冊です。



認知症啓発のための 第1回市民向け&専門職向けセミナーを開催いたします

【開催日時】 令和6年3月16日（土）13:00～

【会場】 ユメニティのおがた 小ホール

【プログラム】

1. 記念講演

「認知症の人が見ている世界」～認知症の人への関わり方の基本を学ぶ～

講師 株式会社 Re 学 代表取締役 川畑 智 先生

2. シンポジウム「認知症になっても住み慣れた街で暮らし続けていくために必要なこととは」～重症化を防ぐために～

シンポジスト

認知症サポート医の立場から: みずほ内科・レディースクリニック 院長 輪田 順一先生

ケアマネジャーの立場から: きんもくせいケアプランサービス管理者 豊田 裕二さん

家族の立場から 認知症の人と家族の会 代表 宗廣 壽美子さん

(座長) 医療法人福翠会高山病院 院長 高山 克彦

(コメンテーター) 株式会社 Re 学 代表取締役 川畑 智 先生

【参加申込方法】

右記の QR コードをスマートフォンで読み取り、お申込みいただくか、下記の認知症医療センター専用電話へ直接ご連絡ください。



【編集・発行】

医療法人 福翠会 高山病院 福岡県認知症医療センター

〒822-0007 福岡県直方市下境 3910-50

TEL 0949-23-0520(専用電話) FAX 0949-24-0838

E-Mail takayamaninchis@gmail.com URL <https://nogata-fukusuikai.jp/>